

## M E E T

## Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト

平成27年(2015年)7月1日(水)

第79回の「環境教育ミーティング」は5月21日(木)長岡京市の後援をいただき、長岡京市立中央公民館と共催で開催いたしました。加藤克巳さんには、「森のめぐみと西山ファミリー環境探検隊～森は循環の要(かなめ)～」と題して、話していただきました。生態系のしくみを知ると、森は自然循環のかなめの役割を果たしていることが分かります。循環を考えます。西山の森の魅力と西山ファミリー環境探検隊の活動内容を紹介して頂きました。

## 参加者の感想

## 1

森林には様々な種類の生物が豊富に生息し、生態系のバランスが維持されています。そして、森林は地球上の炭素や水などの循環において、重要な働きをしています。講師はこれらのことを、基礎からわかりやすく説明されていました。「森林を健全な状態に保つことが大切」というお考えに共感しました。里山林の管理、及び地球温暖化や

熱帯林の減少などの問題と関連づけながら、森林のこうした働きに関して、将来を担う世代に伝えていく必要性を強く感じました。

「西山ファミリー環境探検隊」に8年間、継続的に携わってきた経験に基づくお話は、興味深かったです。西山は比較的整備されており、ショウジョウバカマ・カタクリ・ササユリといった里山を代表する植物、並びに動物が数多く生息しています。環境教育の教材やフィールドとして、



今後也大いに活用できるのではないのでしょうか。鹿肉カレーを調理し、食べる体験は、「探検隊」のプログラムに楽しみの要素を加えるとともに、人間と野生動物との共生のあり方を考える契機にもなる活動として、参考になりました。

## 2

今回のお話の中で一番感心したのは、「西山ファミリー探検隊」のスタッフ陣のスケールの大きさでした。私も同じように、子供たちにいろいろな経験をしてほしいと思い、イベントを行っています。個人プレーになることが多く、こぢんまりとした内容になり、また活動がなかなか広がらない欠点があります。

「西山ファミリー探検隊」では、主催者の層が厚く、学校や団体など多くの方がいろいろな方法でイベントを企画し、子供たちに多くの経験の機会を作っています。子供たちが集ま

る機会を作ることが、そのような機会を持ちたいと希望している団体に参加したいと思わせることでした。

イベントの中で、驚いたこととして、「ものづくりではびっくりするような発想をすること」を挙げておられました。子どもの発想力の豊かさには私もいつも驚いています。

このように、いろいろな機会を経験した子供たちが大きくなってどのような大人になるか本当に楽しみです。

「西山ファミリー探検隊」の今後の活動に大いに期待しています。

## 3

森林がきちんと整備されていることの重要さを改めて実感しました。

西山ファミリー探検隊で森の中でアートを作る体験ができることが非常に印象に残りました。子どものころに自然の中でのびのびと活動することは非常に大切なことだと思い

ます。ぜひ何かの機会に参加してみたいと思いました。



## 4

以前、孫と一緒に「西山ファミリー探検隊」に参加した時は、鹿肉のカレーライスでしたし、マシュマロを焼いて食べました。

今回はバウムクーヘンが人気だったようです。せっかくだから、「バンブークーヘン」と命名して、意匠登録でもしたらどうかなと思いました。バウムはドイツ語で樹木で、クーヘンはクッキーつまりお菓子です。出来上がりの断面が樹木の年輪のようになるとお菓子なので命名されたわけです。

「西山ファミリー探検隊」のスライドを見せていただくと、竹に生地を貼り付けて焼いているので、まさにバンブークーヘンです。美味しそう！！

